

令和2年度徳山高専テクノ・アカデミア総会開催にあたって

徳山高専テクノ・アカデミア
会長 勝井 優

今年の総会開催に当たり、ご挨拶申し上げます。皆様ご承知の通り、新型コロナウイルスによるパンデミックが起きてしまい、日本もオリンピックを来年に延期せざるを得ない状況となりました。日本国内の感染状況は5月25日現在でやっと落ち着きを見せ始め、緊急事態宣言も全国的に解除されることとなりました。しかし、このウィルスは世間一般では、第2波、第3波によるこの冬の大流行が待っているとも囁かれているところです。会員の中には、経済的にも大きな影響があった会社もあることと思います。お見舞い申し上げます。

このような大きな事案が起き、世界大恐慌を上回るような事態になっているとも言われています。こうした中、総会時期になりました。先般も役員会は、初めてテレビ会議にて実施したところです。議案の内容については、別途ご案内しますが、役員の皆様にご協力いただき、スムーズな進行が図れました。これを機に、こうした会議も出来るだけWEBを使ったリモート形式で行っていきたいと考えています。また、総会につきましても、同様に皆様方にご参集いただくのは止めて、簡易な形の総会といたします。ご了承を頂きたいと存じます。

さて、アフターコロナをどうするかが、今現在の大きな課題です。行動様式が大変革し、どうすれば、我々の未来が見通せるのでしょうか？東京1極集中の弊害が叫ばれて久しくその弊害が今回のコロナでも如実に現れました。オフィスでの業務は制限され、人との接触も8割削減を求められました。こうした中、テレワークと称して、在宅勤務が仕事をする上で「新しい生活様式」の中心になっております。私自身も先般の役員会の時実施したテレビ会議が初めての経験となりました。事務局に準備をしていただき、役員各位におかれては、事前に機器の準備リハーサルなどを実施していただき、スムーズに議事進行が行われたことは役員会1つとっても、従来にも増して、関係者全員のご協力が欠かせないことがよくわかりました。今後、我々皆のスキルアップと意識改革で今までにも増して意思疎通を十分に行い、業務の発展・進化を遂げていく必要があると感じています。

徳山高専テクノ・アカデミアが、所期の目的達成のためにも、今後益々役員を始め、会員皆様方のご協力をお願いし、アカデミアを通じて、徳山高専と会員各社の事業が益々発展されることを切に祈念しまして、今回の総会にあたっての挨拶に代えさせていただきます。

令和2年度徳山高専テクノ・アカデミア総会開催にあたって

徳山工業高等専門学校
校長 勇 秀憲

徳山高専テクノ・アカデミア会員の皆様には、日頃から本校の教育・研究活動にご理解と多大なるご支援をいただきありがとうございます。あらためて御礼申しあげます。

新型コロナウイルス感染症が、全世界で日本でそして山口で広がり、その拡大防止に向けて、「新しい生活様式」がこれから2～3年続くとも言われています。まさに、VUCA～Volatility（激動）Uncertainty（不確実性）Complexity（複雑性）Ambiguity（不透明性）～の時代となりました。

本校は、この3月からずっと学生は登校禁止の状況で、3月の卒業式は中止、4月の入学式は新入生だけで開催しました。緊急事態宣言も全国に発せられたこともあり、4月当初から5月10日までさらに学生は登校禁止、もちろんクラブ活動も何もできず、いわゆる学校生活を全く送っていない状況でした。その間、ICTを活用した遠隔授業による学校開始を目指し、いろいろな準備をしてきました。そして、5月18日から、すべての授業を遠隔授業により開始しました。遠隔授業を通して、学生と教員・職員が一体となり“学びを止めず”安心安全な教育環境のもとで、学生たちが生き生きと自ら主体的に「学ぶ」教育が今まで以上に進むと確信しています。

さて、このテクノ・アカデミアのいろいろな活動は、非常に幅広く多岐にわたり、全国高専の中でも特色ある活動だと広く評価いただいております。

専攻科学生への旅費助成、ロボコン・デザコンなど各種コンテストへの助成、ものづくり活動への助成や卒業生・修了生のUターンなど人材環流事業への助成など、教職員・学生へのいろいろな援助をしていただき、ありがとうございます。

おかげさまで、これまで学生たちは伸び伸びとたくさんの活動に集中して取り組むことができいております。

こうした想定できない状況の中ですが、本年度もテクノ・アカデミアの事業が着実に進みますよう、皆様と一緒に取り組んで行ければと思っております。

徳山高専テクノ・アカデミアのこれまでとこれからについて

徳山高専テクノ・アカデミア
顧問 小野 英輔

新型コロナウイルスの全国的感染防止のため、あらゆる会合、催事、総会等が中止、あるいは延期、書面審査で終えることになってしまっている。感染防止のためには仕方のないことだと思う。

徳山高専テクノ・アカデミアの総会も同じ道を歩かざるを得なくなった。私はその総会で基調講演を頼まれていた。徳山高専テクノ・アカデミア設立当時の話をして欲しいとの要望であった。度重なるお願いにこころ重いままに受けてしまった。

しかし、総会の開催方法が変わり、私の講演はなくなった。心底ホッとした。そして、次のお願いがあった。設立当初の一文を書いて欲しい、であった。

20 数年前、元徳山工業高等専門学校校長大山超先生に相談した事から始まった。この周南地区を高度なものづくり工業地域になって欲しい。活性化したものづくり企業が育ち、より豊かな生活が可能な地区になって欲しいと話した。

大山超先生はその話に興味を持たれると同時に必要性を感じてもらえたのだ。その大山超先生の行動が原動力となり徳山高専テクノ・アカデミアは設立されたのです。

初代会長に大山超先生に就任してもらい、現在に至っています。

売価の内訳は、原価部門が 70%、卸部門が 10%、そして、小売部門は 20%、大まかに比率を分けるとこうなるだろう。つまり、原価部門が最も多くの人を必要とし、多くの資機材も必要とする。つまり、この部門の活性化こそ、地域の発展に繋がる。これをこの地区の中小企業が担うと楽しい事が起るはず。

そのためには、当時でも日本一の技術で活躍しておられる企業に今一步の戦略、戦術・技術を付加して、全国から、いや世界から指名が起る企業が出来ると、ものづくり地域として人口が増えるだけでなく、今より、より豊かな生活が営める工業地帯になると思っていた。

受注事業として、一方的に価格、数量を決められる下請的要素の強い体質から、自社で価格が決められ、より多く作ることが可能な見込型体質企業に変える必要があると考えていたのだ。

このような協力、支援が可能な組織は、全国に高い評価を持つ徳山工業高等専門学校しかない、と信じていた。すこぶる良い評価を得ている学生、そして、それを育て、成長させて来た高専の高い技術力、科学を持つ教授陣を利用させてもらうこと以外にない、と考えていた。

それも、企業側の一方的な享受ではなく、ウィンウィンの関係であるべきだ、とも思っていた。理想的な姿を夢見ていた。

大山超先生に共鳴して頂けたこと、本当に有難いことだった。

しかし、私のこの考えは通用しない時代がすぐやって来た。グローバリズムの名の下に、ものづくり業界が賃金の安い国に進出して行ったのだ。それまでは、世界の価格競争には、生産性を高めることで対応していたのに、自助努力を放棄して、安い賃金の外海へシフトした。私はこれが日本の衰退の最大の原因だと思っている。受注額が減り、ものづくりの高い評価の地区でも、悲鳴を上げる時代が来たのだ。賃金はいずれ高くなる。それを追い求めて世界に進出しても、決して将来はないと誰もが分かっていた筈だ。

我国の繁栄はこれで終わりかもしれないと感じた時代の始まりであった。

次に、それとは比較にならない程の大変化の時代が到来した。軍事用であったインターネットが、冷戦崩壊後、民需用に転換された。これ以降、世の中の変化が急スピードで進化し始めた。

GAFAM が世界の経済を席捲してしまっている。比べて、日本の衰退は目を覆うばかりだ。世界のリーダーとして活躍し、21世紀は日本の時代とまで言われたのは何だったのか。そして、今あるのは、何が原因か、後悔ばかりが思い浮かんでいる。恐ろしい時代になった。

今こそ、IoT、AI を活用した、新しい企業づくり、これに乗り遅れると、ある日突然、変化に対応できない時代が来て、自社の存続が危ぶまれることもある時代が来ていると思う。

徳山高専テクノ・アカデミアも変化すべき時が来ているのではないか。そして、その道は必ず存在する。